



## スポーツ基本法(H.23.6.24) 武道必修化(H.24完全実施)の 施行により「武道」「スポーツ」「体育」の明確化!

スポーツ基本法が平成23年6月24日に施行されました。これにより、それぞれの目的が明確になりました。

**武 道:** 日本伝統文化の継承と護身の技の修得。

**ス ポ ー ツ:** 競技の記録と選手の育成。

**体 育:** 運動能力の向上と健全なる身体の育成。

簡単に言うと以上のような事である。スポーツでは、競技者を援助し記録の向上を目指す。体育では、運動能力と健全な身体を養う事を目的としている。武道は、日本伝来の武道を学ぶことにより伝統文化と自立護身の技を身につけることにある。しかし、来年、武道必修化完全実施を前に多くの専門家は、疑問を投げかけている。多くの現場の教師は、武道とスポーツを混同し指導認識不足から試合至上主義に陥り「武道による事故」や「精神的トラブル」を危惧している。現に剣道や柔道の技の講習をして十分と思っている指導者が多いことに驚いている。学校教育である**体育・武道は、競技で良い成績を出すことを決して目的とは、していない。**

全日本拳法会 会長 浅井隆夫



## 2011日本Nepal国際親善大会併に第35回東海地区拳法選手権大会 2011Japan Nepal Friendship Kenpo Competition 35th Japan Kenpo Competition.

2011 日本・ネパール国際親善大会併に  
第35回東海地区拳法選手権大会



場 所 静岡県浜松市増楽 浜松市可美公園総合センター  
日 時 平成23年8月7日(日) 10:00開会  
主 催 東海地区拳法会本部  
後 援 世界拳法会連盟 全日本拳法会

一般部は、優勝:大橋正康、準優勝:  
大橋忠幸 第三位:中嶋貴明 第四  
位:ペンドラ・クマル

過去の優勝結果から  
2011日本・ネパール国際=大橋  
正康

2010世界選手権=大橋忠幸

2009全日本=板橋宏康

2008全日本=大橋忠幸

2007世界選手権=大橋忠幸

2006全日本=大橋正康

2005全日本=刑部布雄

大橋忠幸が一般の部になった過去7年の大会で大橋兄弟以外が優勝したのが2回のみである。過去、準決勝に進んだ選手は、シュワイツ(スペイン)、マーク(フランス)、ハビエル(ドイツ)、イシアル(スペイン)、アライン(バスク)、イワノビッチ(ルーマニア)そして今回は、日本以外のアジアで準決勝に駒を進めたペンドラ(ネパール)が上位に参戦した。

武道  
日本六ヶ国国際親善大会  
東海地区拳法選手権大会  
7日、浜市美公園総合センター  
で、浜市美公園総合センター  
で、

武 道  
① 乱取の幼年 ② 乱取の少年 ③ 乱取の青年  
④ 乱取の中年 ⑤ 乱取の老年  
⑥ 乱取の老年 ⑦ 乱取の老年  
⑧ 乱取の老年 ⑨ 乱取の老年  
⑩ 乱取の老年 ⑪ 乱取の老年  
⑫ 乱取の老年 ⑬ 乱取の老年  
⑭ 乱取の老年 ⑮ 乱取の老年  
⑯ 乱取の老年 ⑰ 乱取の老年  
⑱ 乱取の老年 ⑲ 乱取の老年  
⑳ 乱取の老年 ㉑ 乱取の老年  
㉒ 乱取の老年 ㉓ 乱取の老年  
㉔ 乱取の老年 ㉕ 乱取の老年  
㉖ 乱取の老年 ㉗ 乱取の老年  
㉘ 乱取の老年 ㉙ 乱取の老年  
㉚ 乱取の老年 ㉛ 乱取の老年  
㉜ 乱取の老年 ㉝ 乱取の老年  
㉞ 乱取の老年 ㉟ 乱取の老年  
㊱ 乱取の老年 ㊲ 乱取の老年  
㊳ 乱取の老年 ㊴ 乱取の老年  
㊵ 乱取の老年 ㊶ 乱取の老年  
㊷ 乱取の老年 ㊸ 乱取の老年  
㊹ 乱取の老年 ㊺ 乱取の老年  
㊻ 乱取の老年 ㊼ 乱取の老年  
㊽ 乱取の老年 ㊾ 乱取の老年  
㊿ 乱取の老年



## 「部活動の試合競技中心主義が事故死、怪我につながる」 中島 勇木教授(国士舘大学)



日本の体育教育の問題と成っている中学校の部活動、高校の部活動につき中島教授は、夜、7時、8時まで部活の練習があり東日本大震災で企業も木・金休みとなった。当然、部活による土日の試合の送迎など父母が困惑している現状につき話した。

中島たけし教授は、中学生の部活による死亡事故、けがの発生率から「部活動の在り方」を指摘した。例えば、柔道では、「2009年度までの27年間に中学・高校で合計110人の生徒が柔道の部活動で死亡している。その原因は、基礎体力の養成不足と試合、大会至上主義からである。」「何故、試合のために稽古をしないで、ならないのか？本来、己を高める教育的見地に稽古は、あるべきである。」と述べた。この風潮は、東京オリンピックを境に変化が起きたと話していた。

また、群馬県のバスケットボール指導者落合俊夫氏も「新人戦が早すぎる。基礎体力が養成されないまま試合に出し故障、事故が起きて当然で夜、7時8時まで練習するなど信じられない。」と述べた。新人戦は、少なくとも1年十分に練習した後、行なうべきであるとも言っている。また、大幅に試合数を昭和40年代前半ぐらいの数に減らすべきでは、ないだろうかとも述べた。

最も、中島教授は、2050年には、日本の人口が8000万人に減少し部活の人口も激減するので他の種目からの俄か選手を仕立ててでも試合に出ようとするになる。昭和40年代のように大学4年になって新人戦に出てくるような選手層の厚い時代は、もう来ない。それが、基礎体力不足の事故につながるし少なくとも義務教育では、「試合偏重の部活動は、行なっては、いけない」と述べた。

もう一つの問題点は、「正課でなく課外科目」と言うことで担任の先生任せにしていることである。教師の残業代が増えるかもしれないがそんな事で片付けられないところに「皆さん方のお子さんは、安全、健康面でも来ている。」と述べ、学校任せ！教師任せでなく自分の子は、自分で教育する覚悟が必要と述べた。



### 世界の拳法会の出来事！



南アジアで環境清掃ボランティア



NZ震災武道館復興支援 戸山流合宿



2011ヨーロッパ拳法選手権



国連平和維持軍抜刀訓練



2011武道研究会



日本武道学会(国際武道大学にて)



## 武士道ガール



電話053-439-0909